

	杵 玲
<b>氏 名</b>	<b>方 琳</b>
本籍（国籍）	中国
学位の種類	博士（農学）
学位記番号	連研第 662 号
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 1 項該当課程博士
研究科及び専攻	連合農学研究科 生物環境科学
<b>学位論文題目</b>	<b>中国浙江省におけるグリーン・ツーリズム農家楽に関する研究－日 中欧におけるグリーン・ツーリズムの比較から－（Research into Green-Tourism farmhouse tourism in ZheJiang province, China －Based on comparison of Green - Tourism between Japan, Europe and China）</b>
学位審査委員	主査 岩手大学 准教授 山本 信次 副査 山本 清龍(岩手 准教授)、藤崎 浩幸(弘前 教授)、早尻 正 宏(山形 准教授)

## 論文の内容の要旨

中国では近年「農業の低生産性、農村の荒廃、農民の貧困」の三農問題が特に注目されている。中国政府も 2003 年以降、政策課題として三農問題を取り上げ、その解決に向け種々の政策を打ち出している。一方、都市部では、住民の生活水準が向上し、物質的豊かさだけでなく、心の豊かさを求めるニーズも増加傾向にある。このように、中国のグリーン・ツーリズムは農山村側と都市側双方からの社会要請に基づいて誕生した。

しかし現在中国の農家楽は、個人経営型が多いため、不十分な管理、体験メニューの均一化、地域資源が非効率的利用などの問題も生じてきた。その点においては、日本や欧米などの先進国の農村観光業の体験に学ぶべき点が多いと考えられるが、中国の農家楽を展開する際には、中国の独自事情を加味して考える必要がある。そこで、本研究はこうした観点から、日本、欧州のグリーン・ツーリズムの歴史、発展経緯を参考に、中国の農林業・農村が抱えている諸問題に焦点をあてつつ、中国の状況改善の手段となりうる欧州、日本のグリーン・ツーリズムと中国農家楽を比較し分析・考察することとした。対象地としては中国の沿岸に位置し、経済発展が先行している先進地区の浙江省を選定した。調査方法はヒアリング調査および中国の大学生を対象に、農村・農家楽に対するイメージ、意識のアンケート調査を実施した。

ヒアリング調査の結果としては、観光地農家楽、辺鄙農山村地農家楽、都市近郊農家楽の

全ての立地地区は新農村建設地区に位置づけられているが、農家楽に関する支援は観光地農家楽および辺鄙農山村の少数民族という特殊地区にしか行われていない。観光地農家楽は観光地ならではの団体客の継続利用による順調な経営がなされているが、辺鄙農山村地の少数民族の農家楽は支援を受けられても客数が伸びず経営の衰退が著しい。政府支援を受けられなかった都市近郊農家楽は需要地に近く、支援がなくても自発的に経営を発展させているが、周辺都市からの利用や観光客の継続的利用がない一般の辺鄙農山村地の農家楽は、政府の支援をも受けられなかったため、更に経営の困難さが伺える。ヒアリング調査の結果、現在の中国の国民の農家楽利用の動向から大都市といえども、欧州に見られるように「普通の農村」の景観や農山村そのものを楽しむ意識がまだ醸成されていないとの仮説を立てることができた。

次にヒアリング調査の仮説を実証するために中国の大学生に対する農村・農家楽に関するアンケート調査を実施した。アンケート結果からは現在中国の若者は農村・農家楽へのイメージはよかったが、実際の利用行動としては、観光地農家楽か都市近郊農家楽が人気で、辺鄙農山村地へ行って、本当の「農」を楽しもうという意識はまだ低いことが明らかとなった。また観光専門の学生と非観光専門の学生は農村・農家楽に対するイメージ及び農家楽の利用実態にはあまり差がないことから、現在中国の観光教育分野では、グリーン・ツーリズムに関する知識の伝達は十分ではないことが予想された。

以上の調査の結果を踏まえ、以下のような考察と課題を導出できた。

#### (1) 政府側：公的機関の長期的・計画的な支援

グリーン・ツーリズムを通じて三農問題を解決するために、潜在力がある農村に多大な援助を出すことではなく、条件不利の農村地域を重点対象として支援するべきと考えられる。この点は欧州の条件不利地域政策の中でのグリーン・ツーリズム支援に倣う必要がある。

#### (2) 経営者側：地域・人的資源の活用及び接客としての認識

グリーン・ツーリズム事業を推進するため、地域住民の積極的経営意思の存在や集落や地区の協力が重要であり、地域ならではの資源や人的資源を最大限に発揮することが不可欠である。また経営者としては、施設やサービスの水準を改善するとともに、「人と人との接点において顧客が感じる満足感」というホスピタリティ意識の醸成も農家楽の持続発展に不可欠である。

#### (3) 利用者側：「農」に対する美意識の醸成

こうした意識を醸成するため、都市と農山村の関係を「対立」から「融合」へと誘導するため種々の対策を行う必要がある。具体的には日本における体験学習や交流事業の経験にならう必要がある。

#### (4) 教育機関側：教育的要素の取り組み

中国の教育機関はこれから、観光専門の科目設定を時代の発展とともに慎重に改革し、グリーン・ツーリズムなどの新たな観光形態に関する授業や知識を十分に伝達することが求められる。

現在の中国では、グリーン・ツーリズムに関する研究はいまだ未熟な段階に留まっている。グリーン・ツーリズム事業を展開する際にも、マーケティング調査や計画の作成は十分に実施されていないのが現状である。グリーン・ツーリズムの持続発展を促すため、グリーン・ツーリズム関係の専門家の育成や、研究の深化なども大きな課題となっている。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、中国における「農業の低生産性、農村の荒廃、農民の貧困」の三農問題の解決に向けた手法としてのグリーン・ツーリズム、農家楽の実態とその発展方向について実践的な知見を得ることを目的としたものである。具体的には先進国のグリーン・ツーリズムの歴史、発展経緯をトレースし、その観点から中国の農林業・農村問題が抱える諸問題をとらえ返し比較分析を行っている。さらに中国の沿岸に位置し、経済発展が先行している浙江省を研究地とするヒアリング調査および中国の大学生を対象に農村・農家楽に対するイメージ・意識のアンケート調査を実施している。

ヒアリング調査の結果、観光地農家楽、辺鄙農山村地農家楽、都市近郊農家楽の全ての立地地区は新農村建設地区に位置づけられているが農家楽に関する支援は観光地農家楽および辺鄙農山村の少数民族という特殊地区にしか行われていないこと。観光地農家楽は、観光地ならではの団体客の継続利用による順調な経営がなされているが辺鄙農山村地の少数民族の農家楽は支援を受けられても客数が伸びず経営の衰退が著しいこと。都市近郊農家楽は政府支援はなくとも需要地に近く、自律的に経営を発展させているが周辺都市からの利用や観光客の継続的利用がない一般の辺鄙農山村地の農家楽は、政府の支援も受けられず更に経営は困難であることを明らかにした。次に上記の旅行行動を促す利用者の意識を把握するための省内大学生へのアンケート調査結果によれば中国の若者は農村・農家楽へのイメージは良好であるが、実際の利用行動は観光地周辺の観光地農家楽か交通便利な都市近郊農家楽の人气が高く、辺鄙農山村地へ行って本当の「農」を楽しもうという意識はまだ低いことを明らかにしている。また観光専門の学生と非観光専門の学生の農村・農家楽に対するイメージ及び農家楽の利用実態にはあまり差がないことから現在の中国の観光教育分野ではグリーン・ツーリズムに関する知識伝達が不十分である可能性を指摘した。

以上の調査結果から以下のように三農問題解決に向けた農家楽発展方策を導出している。

- (1) (政府側) 公的機関の長期的・計画的な支援
- (2) (経営者側) 地域・人的資源の活用及び接客業としての認識
- (3) (利用者側) 「農」に対する美意識の醸成
- (4) (観光教育機関側) グリーン・ツーリズム教育の推進

以上のように、本論文は中国における三農問題の解決手法としてのグリーン・ツーリズム・農家楽について、都市近郊・観光地・辺鄙農山村という立地条件の相違に基づく経営

状況の相違についての調査から、三農問題の発現する農山村への富の移転につながる可能性を持つ辺鄙農山村地農家楽が最も困難に直面していることを明らかにし、その上で農山村への旅行行動をどのように活性化するかという観点から、農家楽利用者となりうる中国の若者の農家楽に対する志向や価値観を客観的、具体的に把握するところから実効性ある提言を見出そうとしたもので、高く評価される。

よって本審査委員会は、「岩手大学大学院連合農学研究科博士学位論文審査基準」に則り審査した結果、本論文を博士（農学）の学位論文として十分価値のあるものと認めた。

学位論文の基礎となる学術論文

主論文

1. 中国における三農問題解決のための農家楽の可能性と課題  
—浙江省杭州市桐廬県を事例とする質的調査から  
方琳・山本信次・山本清龍・藤崎浩幸

The Issues solving on the subject and possibility of farmhouse touring  
on agriculture, rural areas, and farmers in China

—A qualitative Case Study In TongLu, HangZhou City, ZheJiang Province

Lin Fang, Shinji Yamamoto, Kiyotatsu Yamamoto, Hiroyuki Fujisaki

日本森林学会誌 第 97 卷 第 2 号 2015 P115—122